

鳥取)である(長沢、1992)。その中で述べておられることを以下に要約すると、ハマシメジという名は、もともと仙台市近郊の海岸のマツ林に10月~11月に発生するものの方言であった。その標本を長沢先生が調査されたら、既に日本でクマシメジ *T. terreum* と同定されているものとは異なり欧州の *T. myomyces* だった。コルチナの有無(クモの巣膜状のツバ、内被膜、が有るのがハマシメジ、無いのがクマシメジ)が両者の区別点であり、福岡県岡垣町三里松原のものも *T. myomyces* だった、というものである。

結局、房総に産する銀茸は、稻毛海岸のも

のから判断してハマシメジらしい。でも稻毛海岸は植えたクロマツで、一緒についてきた外生菌根菌のハマシメジとともに、苗木がどこから来たのかは、わからないのですけど。

現段階の認識としては上記のような事情になるようです。全部、聞いた話なんですが。も~っとよく調べたら、同一種ということになってしまったりして。

皆さんの御覧になった金茸と銀茸はどういうものでした?

(現在シリーズで刊行中の千葉県誌自然誌編第4巻中の原稿を改稿したもの)

(参考)

- ・川村清一、1954, 1955. 原色日本菌類図鑑(1-8巻). 風間書房、東京.
- ・宮地良和. 1991. シモコシとキシメジの見分け方. 日本菌学会ニュース 17: 12-15.
- ・長沢栄史. 1992. ハマシメジ *Tricholoma myomyces* について. 日本菌学会第36回大会講演要旨集, 59頁.
- ・白土三平. 1987. 白土三平フィールド・ノート/土の味. 小学館、東京.
- ・吹春俊光. 1998. 第3章第6節 担子菌門. 千葉県の自然誌本編4 千葉県の自然. p. 146-185. (財)千葉県史料財団、千葉県.

inocolumn キノコラム

八千代市近辺のキノコ情報

近田 節子



また安達さんのお話では40年ほど前はこの近辺でも松林が多く存在し、松露がたくさん採れたそうです。白と黒の2種類があり黒い方は馬糞と呼ばれ、あまり食べることはなかったようです。また当時は松葉を火種にす

るため、擗いて集めたりしていたので、松林はきれいに手入れされていました。

ハツタケなども良く採れ、炊き込みご飯にして美味しい食べたそうです。アミタケなどはあったかどうかはよくわかりませんが、この近辺ではすくなくとも食べていなかつたようです。

千葉では海岸地方以外にも広く多くの松林があり、松と関係する多くのキノコが発生していたのでしょう。今となってはうらやましいですね。

5月下旬、八千代市大和田新田に住み、古くから地元で農業を営む安達さんより、見知らぬキノコが生えたので見てほしいという話があり、さっそく観に行ってきました。

畑のわきにシートを被して積んである牛糞の堆肥からたくさんのはラタケ科のキノコが発生していました。残念ながら和名はつかないようですが、大きいものはささの大きさ15cmを超えるほどのキノコです。食毒、味など不明ですが、ご好意で堆肥を少し

分けてもらいましたので、もし運良くすれば食べてみるつもりです。乞う御期待。

